

## 獣医学系大学を目指す小学生・中学生・高校生の皆さんへ

宮崎大学獣医学科では、大学入試(前期試験)を横浜会場で実施しています。  
(2021-2022 年度入試は COVID-19 感染防止対策のため中止)  
(2023 年度以降中止-早々の復活を願っています！)

動物が好きだから・・・、自分で選択し、進んだ獣医学への道。

私の場合、そうでした。

しかし、大学に入学して、あるいは、獣医師になって、目の前に現れるのは、多くが病気に罹った動物たち。

なかには、今にも死にそうだったり、既に死んでしまった動物たちと向き合わなければなりません。

その病気を診断し、治療し、元通り、元気にしてあげたい。

死亡してしまった時には、何故死亡したのか死因を究明するため病理解剖することもあります。それは、繰り返さないためには、必要な検査です。

本来であれば、病気にならないよう、予防してあげるのが最善です。

ワクチンがあれば、適切に接種してあげますが、それだけでは不十分です。

動物の住んでいる環境、

例えば、

暑くはないか、

寒くはないか、

湿度は適切か、

飲み水はきれいか、

食べ物の栄養に過不足はないか、

食べ物は衛生的か、

適度な運動をしているかなどに気をつけるべきです。

換気は適切になされているか、

当たり前ですが、私達人間と同じです。

動物の病気を、一旦、治しても、また、同じ病気に罹ってしまうことがあります。

動物を飼っている人がその原因を分かってあげないと、また、繰り返すことになるのです。

いくら動物の病気を治しても、また、病気になってしまうのです。

それは、ペットでも産業動物でも同じです。

不思議です。

動物を飼っている人の多くは動物を大好きな人たちです。

なのに、病気にしてしまうのです。

気がつかないところを気付かせてあげましょう。

獣医師は動物が好きだけではダメです。

動物を飼っている人と、よぉ〜く話して、動物のことについて、病気のことだけではなく、いろいろアドバイスしてあげる必要があります。

獣医師は、動物のからだの構造、生理や病気を知らなくてはなりません。

さらには、それと同じくらい、あるいはそれ以上に人とのコミュニケーションを大事にしなければなりません。

獣医療は病気だけを診るのではなく、動物を観て、診る、飼育環境を観て、診る、飼い主さんとよく話すことです。

若い次世代のあなたたちに期待します。

動物の病気を治すより、そもそも動物を病気にしない動物の良い環境を、つくっていきましょう。